

Diary: 平年成海.

清水裕貞

2020/10/30

八千代の森に霧りと冷たい夜が落ちてくる。ニュース番組のアナウンサーは今年一番の寒さと言っているけれど、明日と明後日はむしろ暖かくなるのは予想にとっても明白なこと。今日の夜は立派なニュースセリイロが、穿って千葉日報と煙草を買う。

千葉日報の記事はほとんど読んでいないが、内容のメソは取っている。そう言うと、男に「メソが書けるということは、記事を語っているということではいいのか」と言われた。

記事を語るのと、メソを書くことは完全に分離している。なぜなら書いてある瞬間は自分だけが生み出す文章にしか視線を注いでいないから。

観察とリポートは別々である。どんなに懸命にモチーフを見ていても、描く瞬間は自分の手元しか見えぬ。数秒前の記憶を現在の視界に重ね合わせようとする時、必ず「現実とのズレが生じる。それが重要だ」。しかし男に説明するには少し長すぎるので、余計めに飲んでやり過ごす。

今日の千葉日報で一番気に入ったのは、幕張のナールニューオータニのクリスマスパーティーコンサートの広告だ。誰だか知らはいいけど、燕尾服を着ている人の写真をスキャンしてPhotoshopでゴッホする。

2021 / 1 / 3

ニパAは初音ミクにも行かずにす"と家の中にいる。

イヌワシのついでに不伐伐採可能な環境保護活動中の記事が
 千葉日報に掲載されている。放置された人工林は過剰に
 葉が生い茂っているため、イヌワシが餌とする小動物を上空から
 見つけられにくい。これは小動物が正常に捕食され、
 イヌワシが生き残るための伐採だ。

人工林の写真を切り取ってコピペを繰り返して、チグリス川を変更すると。
 人の姿も鳥の姿も見えなくなる。森の原形は、夕暮れの
 窓硝子に映った反射像のように僅かに感じられる。

夜に早稲から電話がかかってきて、少し会おうという約束をする。
 少し、というのかどういふことなのか。解釈はお互いに曖昧なまま。

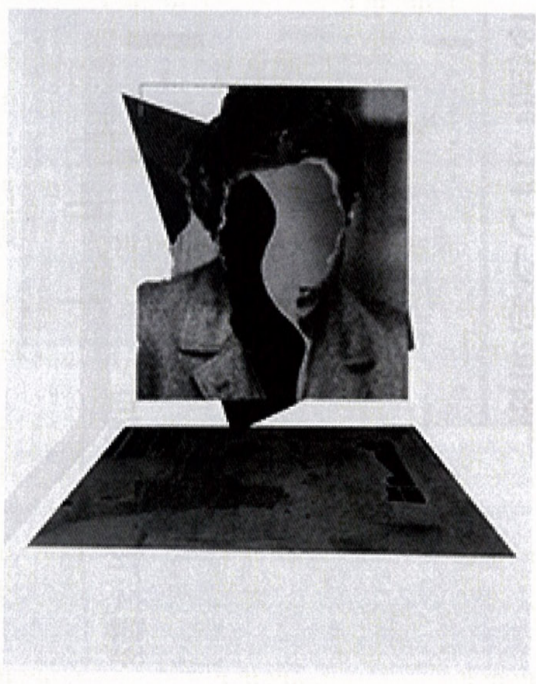
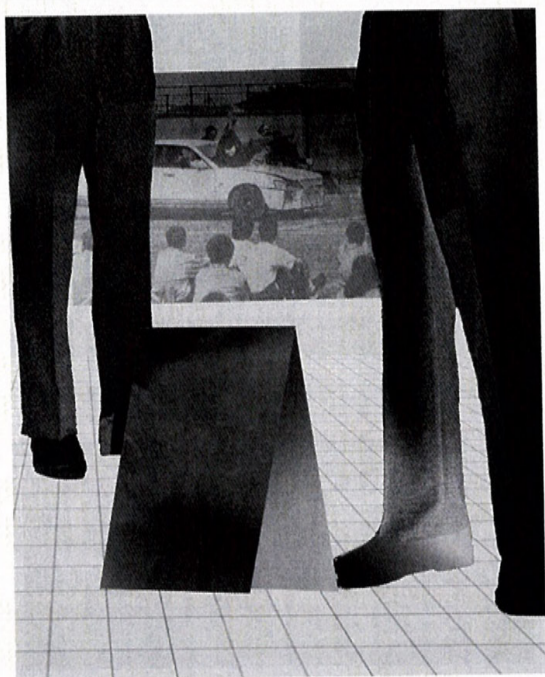
2021 / 2 / 9

千葉日報は時に対コンテンツを押し進めているが、審査員が
 誰なのか不明だ。それは人間的な権力を誇示するコンテンツ
 ではなく、素材は往時の掲載不戻のようはものなのかもしれない。
 しかし新聞に掲載されるとどうしても権威は生じるだろう。

いすワシの写真を切り取り、チグリス川を操作して合成し、
 不自然な遠近感の空間を作り出す。

NO. _____

DATE _____





2021/2/12

19時半から「オーチャード」として、巨蛋はリサイクルショー70を二軒回る。
 併せて買ったものがあるわけではなく、日没後を徘徊している店が
 リサイクルショー70くらいしか見えない。

森はとて暗くて重苦しい空気で満ちている。黒い土の
 地面から冷気が這い上がり、足の血が凍っていく。そのおかげで
 感覚が鈍くなり、かえって歩くのが楽になって。
 私の存在している空間自体が、ふわりと浮かび上がりはじけか
 けて崩れている。今日読んで新聞の内容については、ほぼ覚えて
 いないし、メモも取っていない。泥の匂いを感じる。

2021/3/1

人工衛星の中に「宇宙寺院」を建立するという記事を見つける。
 地上の参拝者の原銀を衛星に転送すると、小さい箱の中
 に入っている正体不明の何者かが宇宙から本行原銀してくるらしい。
 いいニュースだ、と思いはせながら不機嫌にステッカーでPhotoshopを
 立ち上げたら、男から電話がかかってきた。

男は今日、大規模な化石の展示と見に行っただけらしい。「大規模」とは
 どの程度の規模なのかと問うと、男は「五百」と言った。
 それが化石の数として多いのか少いかはわからぬ。土星まわ
 りの数に比べたらかなり少いけれど、[博物館]に並べる数
 としては多いように気がするが、百というのは先代とあるという間に
 達する数で、それを五つ繰り返してはじめて、果して驚くほどの
 成果だろうか。

私が首を傾げていると、男は不機嫌そうに「新聞に載せているから、
 大規模と言っていいだろう」と言った。
 紙面に載せられる文字数とその日の出来事の数によって、
 (ほとんど意味のない)ニュースが仕舞われることである。

2021 / 4 / 18

千葉日報の文学流星名群という連載は、文筆家を毎回一人ずつ取り上げて、その人生について語っている。44回目は永山則夫。1968年に連続射殺事件を起こして死刑囚になる。獄中で自身の人生を振り返る小説を執筆して文学賞も貰っている。

現代には狂った私のみならずと浅はかきで凡庸な犯罪者としてかえりはないのだから、当時は、急激に資本主義に飲み込まれて社会の「歪み」を象徴する存在としてもてはやされてらしい。永山則夫をテーマにして映画が製作されており、映画人や写真家を巻込んだ風景論争に発展している。

永山則夫の小説は読んだことのあるけれど、不愉快だった。今日からは映画はなんて作れないだろう。

今日は全く家から出していない。ネオ銀行の口座を解約。

2021 / 4 / 29

今日は文化庁の神'御'金を使うために三時間歩いた。セブンイレブンとファミリーマートと電気屋に寄り。家に戻ると「アノク」に小分けしたセニール袋がばらばら落ちていた。中には入っていたのは火薬草と経口神'水'液と「今日は桂を使う」というメモ。男が語られてらしい。

千葉日報の系凡面には時折り「ラジ」の最高級は「エロソ」が現れる。これを桂にしようとして決めて、エロソについて、Photoshop上には存在する能自のカンダグに置く。

2021/5/10 この架空の平面が、現実に存在する糸や布に見えるように集中して作業する。ありとあらゆる素材の質感を出すために、はるばる売場の広い作業を即興的に、熱心に、無バテで行う。
9"グーテンベルグの木型だけが唯一の指木素材だ。

2021/5/14 バスケボールの広告に

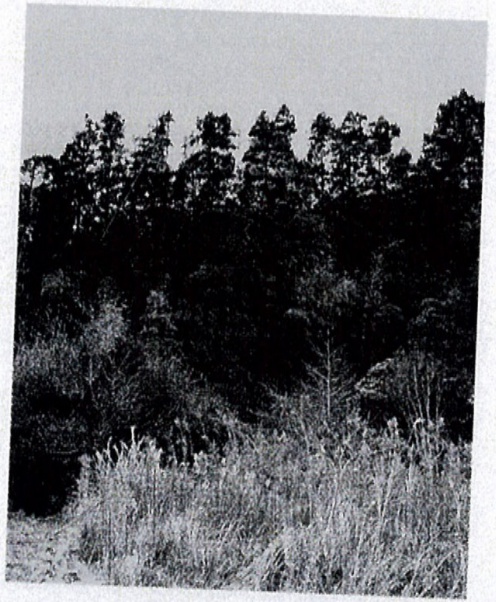
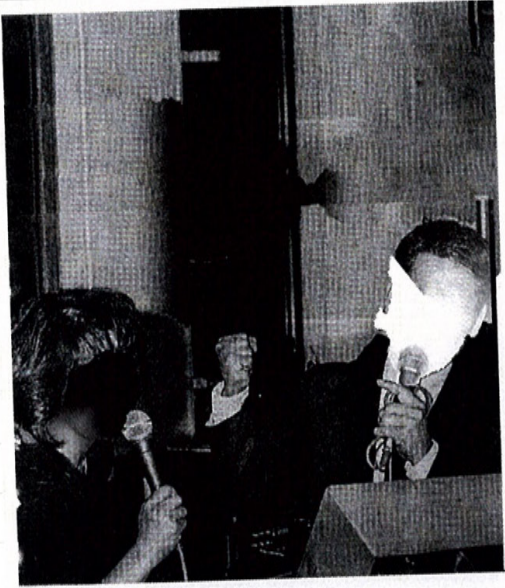
2021/5/14 バスケボールの広告に載っていた千葉ジュニアの監督の背中は美しい。サとして。半日かけて麻のワラステを作った後、二時間歩いてファミリーマートに行き、煙草を買った。すると、軒先の喫煙スペースが通販会社の宅面を使っているようになっていて、ひどく落胆した。家に帰って一時間だけ眠る。

2021/5/18 千葉日報を片読いたら、交通事故の講習会の写真を見つけた。事故の再現のために故意にぶつけられた車はほとんど黒木車に型が古い。東洋新聞社はしばしば同じ写真を使い回すので、とうとう過かまの、うんと遠い過去の光景はのびのびと。ニュースは流れて過去を使いまわしてはいいけれど、写真に片読してはさほど厳密ではない。

カーマートを撮影してPhotoshopで合成していると、男は「ここは厳密に著書目録が必要なんだよ」と、分かって言うように言った。彼は、カーマートの本来の役割を知らず、正確無比な正史の存在を示すためのものだと見ている。

NO. _____

DATE _____



2021/5/30

今日の文学読書群は中上健二で。酒乱で、暴れん坊で、
 垣谷雄高に「61先田俺におせ。お前を殺してやる」と
 高。に、というエピソードしか知らぬ。彼の小説は読んでみたが、
 珍しく、ちかんと最後まで「記事」を覚えていた。なぜ「61」の
 ということは、そのからいまで。

ビートホークに寄って煙草を買う。煙草は依存するのだから、
 買とめ、買いはしはし。

2021/5/31

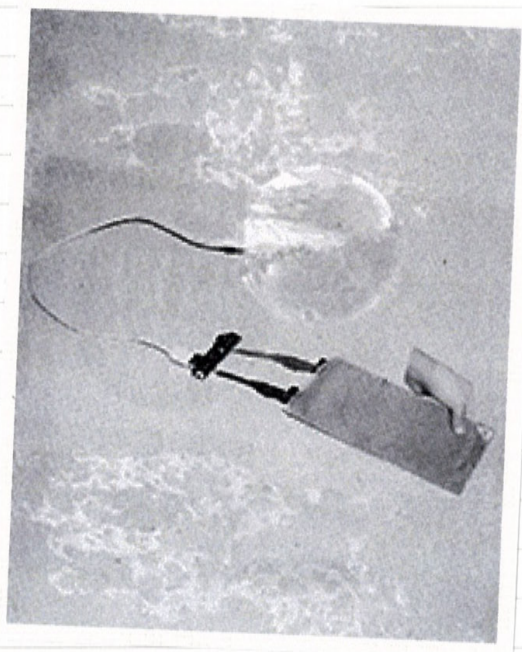
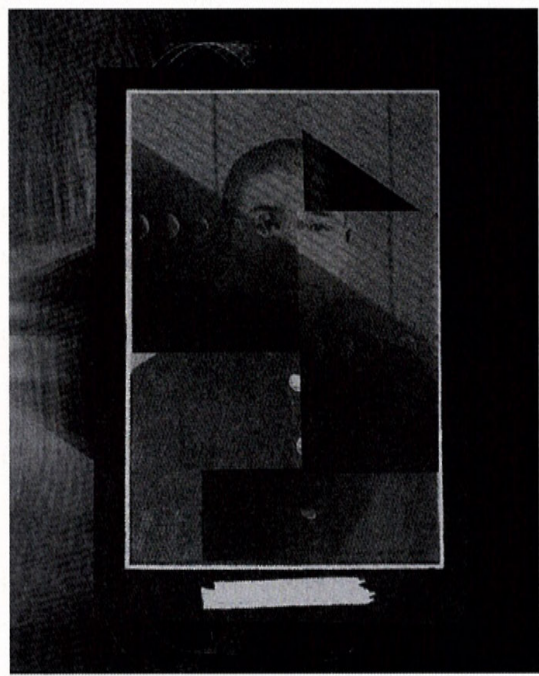
作業にかかっている時間は毎日一時間半くらいだ。という、男が
 「千葉県在住の会社員の平均通勤時間と同じ」と言っている
 ばかりと笑った。

「県境をまたいで都心に通勤に行く人が多いから、やがて」
 毎日、自分の人生から奪われて病気になるには、
 長いのはどう。

堂と愛でている子供の写真を入替して、堂と消す。
 手は審美的な帯回りには、やすいモチーフで、本来はら
 注視が必要など、今日は私を慰めるために
 美しいままで、い。

NO. _____

DATE _____



2021 / 7 / 11

千葉の広報大使と暮ってコンテストのファイナリストたちの肖像と目次のある
広報大使という存在の趣旨が分かりにくくて理解に時間と要しては、
見た感じの雰囲気から察するに、要はやはり百鬼は美人コンテストで
ある。

数十人の女性たちの顔写真を円形にトリミングされてずらりと並んでいる。
円は欠けるところのはい完全な形として器具の中で大きな役割を担う。
顔を取り取る鏡を手に、レジェは円形にする。金鏡は円形にすることで
その不気味さや不吉さを少し和らげるのもレジェは。鏡が円形だと
合わせ鏡を作りにくいらしい。

2021 / 7 / 13

これは過去と現在の喫煙者を比較して煙草の広告だ。いまだに
煙草をとり取り出す広告は珍しい。何故なら、事業者や個人から
社団法人、国際団体は自主規制を強いているからだ。煙草の
広告は、消費者が喫煙するかどうかの「売手」に景気を与えては
いけないという規制がある。広告の税金を課す規制だ。
煙草会社は「一般に流通する印刷出版物において煙草の広告は
原則として行いません」と宣言しているのだが、千葉日報は千葉の
限られた地域でしか発行しているため、どうにか実現してのようだ。
千葉は一般ではないのだ。

2021 / 7 / 15

Photoshopの最新バージョンは解像度を上げると機能が劇的に向上している。存在してはいけない細部と、周囲の質感から想像して、現実らしく補完していくのだ。

しかし新鮮なイメージをスキャンした画像は、糸の点々が邪魔してしまうと補完で消すのは。現実らしい振る舞いとはかけ離れた、奇抜に脚を延びて、真夏の悪夢のような質感だ。今日は熱帯夜にはまる。

作業を終えた後に、二時脚歩いてセブイレブとファミリーマートを回り、街路材の果物に既知の味は、私と尾行している男の姿がちらちらと視界に入り込む。どうにも鬱陶しくて振る舞うと、森が黒くして入る手と反げて、私に覆いかぶさるうとしていく。

2021 / 7 / 22

意思のある曲線と幾つかはあいて、私の手は液体にはまる。モニターの前で溶けていく。男が「ファミリーマートに行かない」と言っている。もうすぐ始まる個展のため、プリントと糸の品を仕立てていくのはいい。

千葉から電車を何本も乗り継いで麻布十番に降り立つ。瀬西はベルの合間に新しい東京タワーが見え、おそろに都会的風景だ。狸の穴という名前が公園がある。ここも音は男が「お母さん、お母さん」と言っている。私は男と触れ合っていて、おそろに蒸し暑い。

気がついたら、男が公園の噴水の中で溶けている。男は「高橋さんとの打ち合わせに間に合えばいい」と言っていて、おそろに蒸し暑い。いつまでも「ずくずく」と噴水に沈んでいく。私は男と触れ合っていて、一人でファミリーマートに行く。

